

第24回 神戸電鉄栗生線活性化協議会（臨時会） 議事録

日 時：平成27年4月28日（火）10：00～11：30

場 所：コミセンおの 1階 コミュニティホール

開会

協議事項（1）神戸電鉄栗生線活性化協議会会長の辞任について

三木市が会長辞任の経緯を報告。

（会長の思いと齟齬のないよう、辞任届をそのまま読み上げる）

－三木市の報告を受けて、以下のとおり意見交換がなされた－

- ・まず、会長が退任理由のひとつにあげられた資料について、事務レベルでは予め説明済みであったこと、および、その配布に際して、会長が制止をされたとされている点について、当社はそのような事実を承知していないことを明確にしておきたい。その上で、資料の主旨であるが（上下分離が話題となっているが）上下分離を審議していただきたいというのではなく、近年、国は法改正等も行って、「まちづくりと一体となった公共交通の再編」を強く促すとともに、地方公共団体が中心となってその環境整備を図るように訴えており、栗生線沿線においても、沿線3市および県が、地域にとって最適と考える今後の公共交通のあるべき姿を検討・策定すべきではないかと意見具申したものであったことをご確認願いたい。（神戸電鉄）
- ・当初、この会議の目的はどのようにして乗客数を増やすかであったと思うが、そういう施策を話し合うべきであるのに、上下分離等の方向に話が進んでいくのは沿線住民としては納得がいかない。今までやってきた施策を無視することになる。上下分離や経営面の話し合いは別の場でしていただければと考える。栗生線を残したいという沿線住民の声は変わっていないし、残したいという思いは皆同じはず。どうすれば乗客数を増やし、盛り上がりをつくっていけるかに力を注ぎたい。最後までそういう方向で進んでいきたいと思う。（委員）
- ・神戸電鉄も同じ思いで取り組んでいる。実際この協議会で取り組む事業で、かなりの乗客数を底上げしていることに関して、大変感謝しており、事業の

成果は出ていると考えている。しかし現実として目標の利用者数と実績数との乖離が広がっており、利用促進の取組だけでは栗生線を維持・存続させていくことは難しい。栗生線を存続させることが、ここにお集まりの皆さまの最終目標であることから、利用促進以外のことも含めて情報を共有・全体像を理解していただいた上で、議論を進めていくことが大事だと考えている。この協議会で上下分離等の討議をしていただくという主旨ではない。(神戸電鉄)

- ・協議会はあくまで連携計画を実施する場であると考えている。この目標を共有して進むべきである。(神戸市)
- ・会長辞任については、率直に驚いた。このような栗生線の危機的状況の中、三木市の姿勢が後退したかのように感じ、非常に危惧している。(小野市)
- ・会長の辞任は決して栗生線に対する姿勢が後退している訳ではない。(三木市)
- ・この協議会は、全ての沿線住民の協力のもと、全ての沿線自治体が主体的に活性化に取り組むのが前提だと思う。会長辞任により前提条件が崩れているのではないかと考えたが、三木市は活性化に消極的ではないと聞いたので、今後も引き続き委員として役割を果たしていきたい。(県)

協議事項 (2) 神戸電鉄栗生線活性化協議会会長の選任及び協議会の今後のあり方について

—行政で話し合って会長を決定してはどうかということに関して—

- ・小野市が会長を2年間務めた後、三木市が4年間務めさせていただいたので、次は神戸市にお願いできないかと考えている。また、県にも積極的に入っていただきたい。会長の選任などについて、行政で今後話し合いを持ちたいと考えている。(三木市)
- ・栗生線については、沿線3市の中で三木市が地理的にも一番重要な位置であるため、三木市が中心となって活性化を進めていただきたい。三木市にリーダーシップを発揮していただきたい。(神戸市)
- ・会長職は、県ではなく、より沿線住民に近い沿線市から選出するほうが望ましい。その中でも栗生線の中核は三木市と考えている。(県)
- ・県に対して要望させていただくのですが、栗生線は複数の市をまたぐ鉄道であり、広域的な利用者にとって大切なものです。鉄道は県内の交通ネットワークを担うものであり、一つの自治体のみで決められる課題ではない。会長という立場でなくても、県がリーダーシップをとって進めていただければと考えている。また、会長職に関しては、沿線人口が多く地理的にも中心の三

木市が適任と考えている。(小野市)

この協議会では決まらないので、継続審議をお願いしたい。(座長)

- ・ 県としては、栗生線の問題について一步引いているわけではなく、この協議会に関しては沿線市や沿線地域が主体であり、県は前に出るものではないと思っている。(県)
- ・ 協議会のあり方については、今後も活性化協議会で利用促進策を議論していくことに加え、この場で議論していいかは別として、地域の公共交通のあるべき姿を策定し、それに向けてどのように取り組んでいくのかを考える場が必要だと考える。(神戸電鉄)

活性化再生法の考えを踏まえていただきたい。(座長)

- ・ 県が主導で調査事業を進めている。それを踏まえて今後の利用促進について議論を進めていただければと思う。(近畿運輸局)

現状のデータの分析をしていくことが今後の武器になると考える。(座長)

- ・ 今までの努力がうまく利用促進につながっていないと思われるので、この協議会の下に、利用促進についてデータ分析する下部組織をつくってはどうかと考える。そこでデータを分析し、利用促進のターゲットを絞っていくべきではないか。(県)
- ・ 協議会は、いかにして利活用を行うかが大半意見だと認識している。今後も乗客増の施策を進めていくべきである。しかし、神戸電鉄が言うように 700 万人達成は難しい状況が一方であるのも事実であり、経営面からも検討が必要なのは避けては通れない。単に利活用だけでなく経営面からも検討できる様にしていただきたい。その議論が出来る場を、是非県に作っていただければと考える。(小野市)
- ・ そのような存続に向けた議論が出来る場づくりと、それぞれの意見のとりまとめをお願いしたい。ただ、新聞等で神戸電鉄の経営への関与云々といった意見が報道されていたが、それには違和感がある。栗生線の経営をどのようにして成り立たせるのが問題であって、それに対して神戸電鉄としてどのような役割を果たせるのかを考えるべきと思う。(神戸電鉄)
- ・ 県が中心となって経営面から検討を行う場を作るという提案については、持ち帰って検討したい。仮に県がリーダーシップを取ったとしても、各市がど

ういうまちづくりをしていくかについて、しっかりとしたビジョンを先に示して頂く必要があると考える。(県)

地域で栗生線をどう活かすのかという議論が大切である。

本日の整理をすると、会長の辞任については一旦受ける。

新会長の選任については時間をかけて次回の協議会までに決めていただきたいと思う。

協議会の今後のあり方については各委員からいくつかの提案が出たので、協議会での議論をどう進めていくかは次回の会議までに整理をお願いしたい。(座長)

閉会